

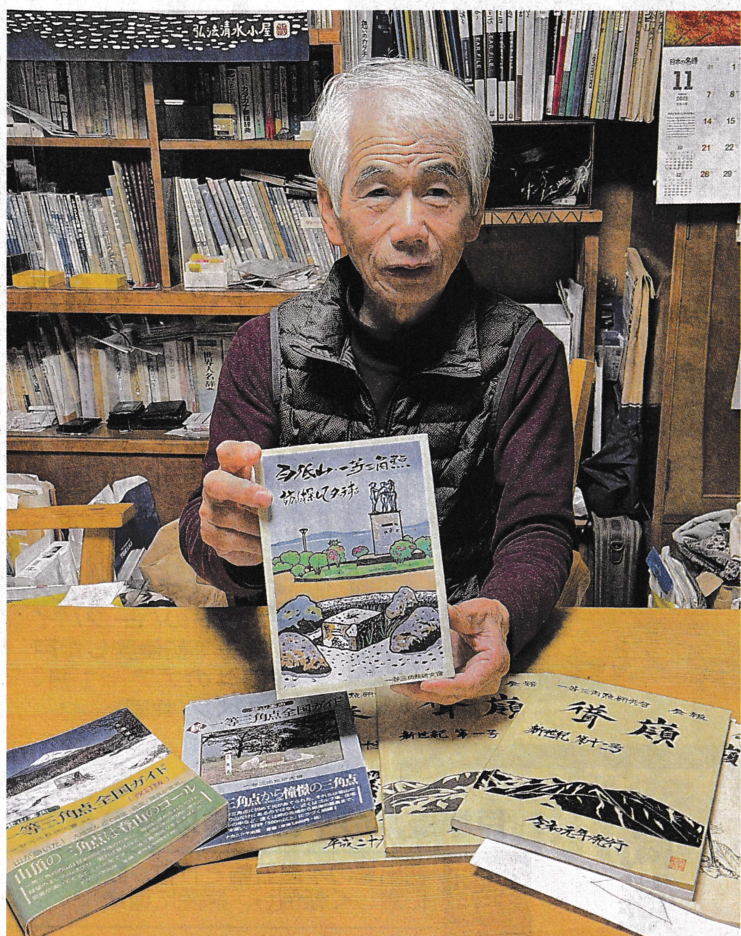
「一等三角点」訪ね15周年

西京の団体 故今西錦司さん系譜継ぐ

全国にある一等三角点の標石を訪ね歩く団体「一等三角点研究会」（京都市西京区）が設立15周年を迎えた。登山家で文化人類学者の故今西錦司さんが顧問を務めた団体の系譜を受け継ぎ、会員は全国に約100人。会長の大槻雅弘さん（79）は「苦勞して三角点を見つけた時の喜びは何ものにも代えがたい。奥深い魅力を知ってほしい」と話す。

一等三角点は、明治時代 県の南アルプス赤石岳の3に国が地形図を作ること 120・53、最も低いの目的に設置した測量用の基 北海道の野付半島の1・準点。約45千間隔で設けられ、全国に974カ所ある 1973年に今西さんを（4月1日現在）。最も標 顧問とする「一等三角点研 究会」が設立されたが、会

高の高い一等三角点は長野 三角点を回ったメンバーも いるといい、同會の活動記



15周年記念で出版した、低山にある一等三角点を紹介した本を手にする大槻会長

（京都市西京区）



全国に会員100人 「苦勞して見つける喜び」

比叡山の一等三角点(天津市坂本町)

録として11年と13年に「一等三角点全国ガイド」を計2冊発行。噴火で立ち入れない山や渡航が難しい離島などを除く961カ所を、メンバーが現地で見つけた写真入りで紹介した。大槻さんは「魅力が話す。」

一等三角点には有名な山の頂上だけでなく、無名の低山や無人島、マンホールの中、自衛隊の演習場などにもある。標石を探して、国土地理院の資料「点の記」や地図を片手に、道なき道を分け入っていくこともあ

という。

現在、メンバーの平均年齢は70歳超。11月上旬には約40人が比叡山の一等三角点まで登り、15周年を祝った。低山を選んで回ったり、周辺の歴史を学んだり、一年齢や目的にあった楽しみ方ができる」と大槻さんは魅力を話す。



比叡山の一等三角点まで登り、節目を祝った一等三角点研究会のメンバーたち(天津市坂本町)

（藤松奈美）